



おぎはら耳鼻咽喉科は開院2年目がスタートしました。2020年度はクリニック内の業務に慣れることを優先していましたが、2021年度はもう少し外にでかけて行って、活動の場を広げていきたいと考えています。

言語聴覚士とSDGs

最近、SDGsということばをよく耳にしますね。昨年度まではあさチャン！でSDGsプロジェクトとして“SDGsな未来へ・ここスゴッ！発明”というコーナーがありましたし、池上さんの番組でも特集が組まれていました。SDGsとは“Sustainable Developmental Goals”の略で、日本語では「持続可能な開発目標」となります。SDGsは2015年の国連サミットで採択されたもので国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

どのような目標があるかといいますと、



となっています。分かりやすいものもあれば、目標達成までの道程がピンとこないものもあります。メディアで取り上げられているSDGsのはなしは、新しい技術を開発する企業が取り組んでいることという印象で、どうしても自分と関連付けて考えられませんでした。しかし、訳あって補聴器や聴覚障害者が便利に使用できるアプリ、システムなどについて調べていたときに、それらの機能についてSDGsのアイコンが付けられているのをみつけました。4、9、10、に関するものが多いのですが、

- 教育機関での手話通訳やノートテイクの導入
- 会話音声文字化のアプリ
- 通話相手の言葉をリアルタイムで文字変換
- 補聴器のIoT(Internet of Things、モノのインターネット)機能を使用し、スマートフォンや家電と接続

などです。SDGsがぐっと身近なものに感じられました。自分で開発することはできませんが、知る、参加する、活用する、広めていくことはできるかな、と思いました。

さて、2020年6月に発表された日本の達成状況は17位でした。達成状況は4段階で評価されますが、「達成」の評価を受けた目標は4、9、16でした。最低評価の「主要課題」の評価を受けた目標は5、13、14、15、17でした。ちなみに達成状況1位はスウェーデン、2位はデンマーク、3位はフィンランドの北欧3カ国が独占していました。期限の2030年までもう1/3が過ぎてしまいました。10年後、世界はどう変わっているのでしょうか。

絵本マスターいちおしの『いきものづくし ものづくし』。もう手にとっていただけましたか？こちらは一般的な図鑑とは異なり、「繋がり・違い」に注目できる本である、とのことですよ。

例えば、「つの」というページで紹介されている動物は、動物そのものの説明は一切書かれておらず、名前だけ。枝分かれしている角だなあ、グルグルねじれている角だなあ、平べったい角だなあなど、読者が見て、比べて、考えることができます。また、1巻には「およぎのとくいなさかな」、2巻には「いわばのさかな すなぞこのさかな」のページがあります。住む場所の違いによって魚の形状にどんな違いが現れるか、眺めながら考えてみるのも楽しそうですね。巻末には「よんでたのしむ いきものづくし ものづくし」という冊子がついています。こちらの説明を読みながら絵を見るのも楽しいですよ。

修復

だいぶ前からグラグラしていたものの、だましだまし使っていた飛沫防止アクリルパーテーション、先日ついに修復しました。

スマホのカメラロールを遡ると昨年4月23日、開院1週間前に製作していました。キリであけた穴が大きすぎたのでしょうか、使っている間にだんだんとネジが緩んできました。ネジ穴をボンドで埋める、端材をひっくり返してネジをとめ直す、など色々な修復方法を考えました。結局、これまでのネジを一度外し、ひとまわり太くて長い



ネジに変えるという方法で修復しました。作業途中、金具に隠れていた部分の木の色を見てびっくり！1年間でこれだけ日に焼けたのでしょうか。まるで水着の跡みたいですね。ST室、太陽の光がいっぱい入ってとても明るいですからね。

美容記事などで、'室内でのうっかり日焼けに注意'といったはなしはよく読むものの、たいして気にしていませんでした。でもこれを見て、これから夏に向かっていく日々、日焼け止めクリームを塗ろうかなあと考えました。(井上理絵)



プラスチックごみの憂鬱

レジ袋が有料となりエコバックで「地球にいいこと」をしている気分ですが、時に、焼け石に水？と憂鬱（ゆううつ）になります。私の場合、この憂鬱が週1回プラスチックごみ回収の日にはやってきます。捨てるプラスチック類の多いこと！しかもごみ用「レジ袋」は新品を買うのです。

昔、引き売りの豆腐屋さんのラップに、慌てて鍋をもって買いに出たことを覚えています。いま豆腐はプラスチック容器入り当たり前、肉も魚も発泡スチロールとラップで保護されています。容器の使い捨ては日常となり、便利で快適な生活はプラスチックに支えられていると言ってもいい程です。しかし一方、海水に混じる細かなプラスチックや汚れたプラごみの山が報道され、キッチンから去ったごみの行方の怪しさもだんだんわかってきました。

ごみを捨てたらスッキリ1週間と、のんきに構えてはいられないようです。これから生きる子どもたちを思えば、私たち大人が、毎日でも真剣に考え向き合うべき「憂鬱」なのかもしれません。私なりのSDGs、少しずつ探してみたいと思います。

(鈴木恵子)

編集後記：飛沫防止アクリルパーテーション、修復までして使うことになるとは…。早くこのようなものを使わなくて良い生活に戻りたいですね。